

Information

第5回 成育医療研究センター地域医療連携懇親会開催のご報告

令和5年12月23日(土)16時半より京王プラザにて、第5回 地域医療連携懇親会を開催いたしました。

平素より当センターの診療にご理解とご協力をいただいております医療連携登録医の先生方、患者さんご家族の在宅療養生活をご支援くださる関係機関のみな様にご参加いただき、直接ご意見ご要望をお伺いできる機会となりましたこと、心よりお礼申し上げます。

当日は、第一部に第36回成育臨床懇話会「国立成育医療研究センターの今」と題し、3名の医師から発表させていただき、みな様熱心にご聴講くださいました。続く第二部成育地域医療連携懇親会には、御来賓含め74名のご関係の方々にご出席いただきました。

当センターは、小児・周産期医療を専門とす

る国立高度専門医療研究センターであると同時に、地域医療支援病院として今後も地域のみな様にお役に立てるよう日々精進して参ります。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



各所連絡先

患者ご家族からのご予約 ▶ 予約センター <直通>03-5494-7300 (月~金 9:00 ~ 17:00)

●医療機関の先生からのご予約・お問い合わせ

救急の場合 ▶ 救急センター <代表>03-3416-0181 (24時間受付)

小児集中治療室(PICU)への転送・搬送 ▶ 03-5494-7073 小児救急搬送チームにつながります

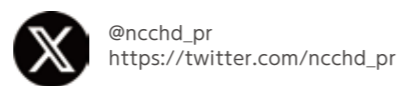
新生児集中治療室(NICU)への転送・搬送 ▶ 03-3416-0181 NICUにつなぐように伝えてください

母体搬送 ▶ 03-3416-0181 母体搬送担当の医師につなぐように伝えてください

早期に診療が必要な場合
セカンドオピニオン外来
医療機器の共同利用(放射診断部) ▶ 医療連携室 <直通> 03-5494-5486 (月~金 8:30 ~ 16:30)

国立成育医療研究センター 広報 SNS National Center for Child Health and Development

国立成育医療研究センターや、成育医療に関する様々な情報を投稿しています。ぜひ、フォローしてくださいね。



発行：国立成育医療研究センター 理事長 五十嵐 隆

編集：企画戦略局広報企画室 村上 幸司 神田 幸江 田地 美香

〒157-8535 東京都世田谷区大蔵 2-10-1 電話：03-3416-0181 FAX：03-3416-2222

成育だより

2024
Vol.37
冬号

Contents

対談／新任のご挨拶

NEWS／学会

ふれあい通信／センターの取り組み

診療科のご案内／研究開発のトピックス

寄付について／Information



国立成育医療研究センター

ジェンダーの多様性について

研究所副所長 分子内内分泌研究部長
深見 真紀

ダイバーシティ研究室長
松原 圭子



左 深見 真紀 右 松原 圭子

聞き手 今回は大学生を対象としたところの性の調査を発表なさった先生方に伺います。

最初にこの図の見方についてご説明いただけますでしょうか。

深見 大学生736名を対象に調査を行いました。まず図1のジェンダーアイデンティティ(GI)は、105点満点であれば完全に自分の戸籍上の性(社会的性)と一致しているということです。満点の方はそんなに多くないという結果です。32点の方は完全なトランスジェンダーです。ほとんどの方は、GIと社会的性の間に少し不一致感があるということです。

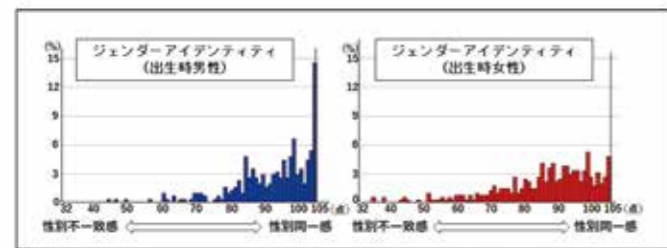


図1

聞き手 どれくらいの方が不一致感があると思われるのでしょうか？

深見 平均が80-90点位なのです。おそらく、別の性に生まれていたらもっと幸せだったと思うことが時々あるという方が多くいらっしゃるのではないのでしょうか。

男性より女性の方が不一致を感じている方が少し多いのは、「あなたは女の子だからこれをしなきゃダメよ」などと言われるような社会的な背景もあるのではないかと思います。

聞き手 40-50点あたりの方についてはいかがでしょうか。

深見 自分が男(女)であることで、不一致感や生きづらさを感じる方が時々あるという方々です。

聞き手 図2は性的指向を表していますね。

深見 これは21点満点で、21点だと男性だけを性的指向の対象と持っているということを示しています。3点だと対象は女性のみという事です。

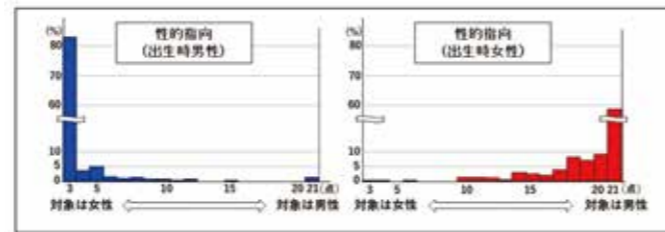


図2

例えば、男性の80%以上が性的指向の対象は女性のみと答えています。そのほかの方は、同性にも性的魅力やファンタジーを感じることもあるということです。

聞き手 この結果を見て、先生たちはどのように感じられましたか？

松原 この結果をみると、男性に比べて女性の方が、GIや性的指向のスコアのばらつきが大きいように見えます。いわゆる「男」や「女」の枠でとらえられないGIや性的指向を持つ方が、女性で少し多いことを示します。実はこのことは、今まで海外の研究でも報告されていたので、予想できていたことではありました。

聞き手 海外の調査に関しては、もっと年齢が高い人たちのデータなどもあるのですか？

松原 社会的な関心の高まりとともに、思春期から成人の方まで、色々な方を対象にして、性別違和やウェルビーイングに関する研究が世界中でなされています。

聞き手 最近はLGBT+Qという言い方をよく耳にしますが、そういう人は完全に普通の人とは違う、というイメージをもっていたのですが、今回グラデーションがある事を初めて知りました。

深見 一般の方々にもGIや性的指向にグラデーションがあり、社会をLGBT+Qの人とそれ以外に分けることはできないということがわかりました。なお、他の施設の研究では、年齢とともにところの性が変化することもある事がわかっています。

聞き手 お子さんの場合はどうなのですか？

深見 小さい時から何となく違和感を持っている方もいれば、成人後に突然性別不適合を自覚する人もいますといわれ

ています。

聞き手 子どものそういった性の違和感、GIについて、相談できるクリニックはあるのですか？

深見 国内外において、そのような相談ができる機関はあまりないのが現状です。当センターでは、内分泌代謝科、こころの診療科、泌尿器科、臨床心理士などがかわって性についての診療をしています。さまざまな相談に十分な対応ができているとは言えません。今後の取組が必要です。

聞き手 もう一つ、深見先生のご研究分野である性スペクトラムについて教えてください。これは医学用語でしょうか。

深見 これは新しく作られた単語です。以前から、身体の臓器に性差があることがわかっていました。外性器や乳房の形だけでなく、筋肉、腎臓、肝臓などさまざまな臓器の形と機能に男女の違いがあります。しかし最近の研究で、人間の体は単純に男女の2グループに分けられるわけではなく、グラデーションがあることが見えてきました。臓器にも個性があって、この人の臓器はすべて女性(男性)型ですと言えないことが多いです。また、一人の人の中で、すべての臓器の性が統一されているわけではないです。性ホルモンはこれを統一する作用がありますが、完全ではありません。

聞き手 どちらの図もグラデーションがある、つまり多様性がある、という結果になりましたが、多様性について、もう少し詳しく教えてください。

松原 多様性というのは、いろんな違いを持つ人が、ともに存在することを指します。性別、年齢、国籍などがこのような違いに含まれます。子育てしているとか介護をしているとか、障害の有無、宗教や信条、価値観も含まれます。そして、GIや性的指向もそうです。大事なことは、そういう特徴や特性、「属性」と言ったりもしますが、属性によって人を区別するのではなく、いろいろな人達がそれぞれの持つ力を発揮できるような仕組みを整えて、社会や組織全体の力をみんなで底上げしていくことだと考えます。そういう取り組みは、ダイバーシティとインクルージョンと言います。特定の属性を持った人が不便を強いられていたり、特定の属性を持った人だけが優遇されているように見えるような構造があるのであれば、それをどうにかしてもっとうまいやり方を作っていきましょう、そしてみんなでよりよい社会を作ってい

ましようということかなと考えます。

聞き手 そういった研究や活動をしているのが、2022年に発足した先生のダイバーシティ研究室ですね。

松原 研究室では、ダイバーシティとインクルージョンという仕組みで世の中を見たときに、みんながふわっと嫌だな困ったなと思っていることをしっかり言語化して現状を明らかにして、科学的、生物学的に裏付けをすることで、社会の新しい仕組みをつくるための材料となるような研究をしていきたいと考えています。

性的マイノリティの方に話を戻しますが、日本では、性的マイノリティであることを公表されている、あるいは異性装されている方は、ずいぶん前からテレビなどのメディアに出られています。ですので、そういったありように対し、違和感がない、あるいは魅力的だと感じる文化的土壌はあるのではないかと思います。

深見 日本には歌舞伎や宝塚など演技者が異性の役割を果たす芸術分野もあり、人気があります。

松原 ただ、こういう土壌があるからといって、当事者の方が日本で困っていないかといえば全然そんなことはない。エンターテインメントの中の世界ではジェンダーの多様性に寛容だが、自分の身近なこととして、例えば同性婚の制度をどうしたらよいですか、ということに関しては、どうしてよいかわからない、またはあまり関心がない、ということになっているかもしれない。そして、「男らしさ」「女らしさ」の価値観とそれに基づいて設計された社会的な制度もありますので、当事者の方が不便を強いられている現状はあると思います。でも、最近は変わってきています。

聞き手 世田谷区と渋谷区では、同性パートナーシップが認められていますね。

深見 少しずつですが、社会が受け入れようと変わって来ています。今後、成育には女性の健康センター(仮称)が設立予定です。身体健康だけでなく、そういった性的問題についても考え、多様性をお互いに認められて誰もが生きやすい社会になっていくといいですね。

次回は新しいセンターについてお聞きできればと思います。どうも有難うございました。

※研究(プレスリリース)の詳細はHPよりご覧ください。

新任のご挨拶

今年度7月より、教育研修室長に着任いたしました利根川 尚也(とねがわ なおや)と申します。専門は、小児総合診療と医療者教育です。2011年から、当センターで小児科専門研修を修めました。臨床はもとより、研究や教育、ボランティア活動など、一流の志を持つ皆さまと過ごした日々には、多くの大切な思い出があります。その後は、沖縄の海軍病院を経て、沖縄県立南部医療センター・こども医療センターで、小児総合診療科の立ち上げおよび臨床研修を中心に、院内外の連携整備や多職種の人材育成に携わりました。

現職を務めるにあたり、当センターのレジデントには、誇りある研修を余すところなく堪能してほしいと思います。また、教育を軸とした協働の推進を職務と捉え、年

教育研修室長 利根川 尚也



次や職種、専門の垣根を超えて、少しでも皆さまのお力になれるよう、精一杯努めたいと思います。「学ぶ」「教える」に関わらず、何となくのお困りごとがある方や、具体的なアイデアをお持ちの方、プロジェクトの推進力を求められる方はどうぞお気軽にお声掛けください。

因みに、私は釣りと踊りに関しては、4つ5つバカがつくほど好きです。好きな方がいらっしゃれば一緒にできれば幸いです。

NEWS ニュース

2023年度日本白血病研究基金研究助成事業・小児領域特別研究費(毎日賞)受賞

小児がんセンター 小児がんデータ管理科 加藤 実穂

この度2023年度公益信託日本白血病研究基金研究助成事業・小児領域特別研究費(毎日賞)に、日本小児がん研究グループ(JCCG)成育データセンターとして「白血病経験者の妊孕性リスク層別化に資する電子的データ集積システム(EDC)の構築」が採択されましたのでご報告いたします。

日本では、小児がん晩期合併症に対する支援体制が整備されているとは言い難く、これは妊孕性についても同様です。そこで本研究では、小児がん治療後の妊孕性に関するデータを系統的に収集し、後にリスク評価を行うためのEDCを構築することにしました。またそれを、

今後登録開始予定の前方視的小児がん長期フォローアップ研究のデータベースと連結し、エビデンス創出の一助となればと考えています。

当科はデータ管理に加え、それを患者さんに還元する体制づくりを心掛けています。これからも小児がん中央機関として、小児がん医療の底上げに貢献したいと思います。



第44回小児腎不全学会 優秀演題賞

腎臓・リウマチ・膠原病科 西 健太郎、秋山 みさき

この度、佐賀県で開催されました第44回小児腎不全学会学術集会に参加しました。「慢性腎不全」、「腎移植」、「血液浄化・急性腎不全」、「看護・メディカルスタッフ」の4部門それぞれの最も優れた演題に対して授与される「優秀演題賞」を、「慢性腎不全」部門では西 健太郎が、腎移植部門では秋山 みさきがそれぞれ受賞いたしました。当センターは常日頃より腎不全の管理・腎移植に思いを注いで取り組んでおりますが、当院で診療した患者さんから得られました知見が認められ、全国の患者さんへと届けられることを大変嬉しく思います。本論

の作成にあたり多大なご協力・ご指導を賜りました多くの方々、日頃より小児腎不全児診療に関わってくださっている全ての方々により感謝申し上げます。今後も小児腎不全領域の発展に全身全霊で寄与していく所存です。



左 診療部長 亀井 宏一

第47回日本小児皮膚科学会学術大会で、若手奨励賞 最優秀賞

アレルギーセンター 山本 貴和子

受賞演題は、食物アレルギー予防のために、アトピー性皮膚炎の赤ちゃんに対して早期に治療を行った「アトピー性皮膚炎への早期介入による食物アレルギー発症予防研究/多施設共同評価者盲検ランダム化介入平行群間比較試験: PACI Study」です。詳細は、QRコードのプレスリリースをご参照いただけますと幸いです。

ご参加いただいた多くの皆さまをはじめ、研究にご

協力いただきました関係者の皆さまのご尽力により成果を出す事ができました。心より御礼申し上げます。更なる食物アレルギー発症予防のために、日常診療・臨床疫学研究・社会実装にまい進して参ります。



内閣府特命担当大臣表彰受賞

令和5年11月9日に栃木県宇都宮市で開催された令和5年度健やか親子21全国大会にて、内閣府特命担当大臣表彰を受けました。日本で必要なプレコンセプションケアを国内外ワークショップでの議論などで明らかにし、自治体や企業、教育現場などでの啓発活動を行ってきたことが評価されました。ひとえに当センター

周産期・母性診療センター母性内科 診療部長 荒田 尚子

の関係者の皆さまのおかげと感謝申し上げます。引き続き、当センターの一員として、成育医療に貢献できるよう、努力して参りたいと思います。



Young Investigator Awardを受賞

レジデント 林 敬淳

この度、韓国で開催されたアジア環太平洋小児栄養消化器肝臓学会においてYoung Investigator Awardを受賞することができました。

“The characteristics of perianal disease in pediatric patients with Crohn’s disease”の演題名で、過去10年間に当センターで診療した肛門病変を合併する小児クローン病患者の特徴、治療内容と臨床経過について報告しました。アジア屈指の小児炎症性腸疾患センターである当施設の豊富な経験と、内科と外科の連携による質の高い診療に感銘しました。

発表の準備にあたっては、消化器科の新井 勝大先生、清水 泰岳先生、竹内 一朗先生に繰り返し指導いただき、最終的には、この賞に相応しい発表ができたと思っております。

賞をいただいたことを励みに、今後も精進して参ります。最後に、応援してくれた家族に心より感謝申し上げます。



学会 第16回国際小児がん学会アジア大会(SIOP Asia 2024)

開催日時: 2024年6月22日(土)~6月25日(火)

開催方法: 実地開催(パシフィコ横浜)

会長: 松本 公一 小児がんセンター長

対象: 小児がん関係者、小児がんに関心のある方

内容: WHOが提唱する GICC(Global Initiative for Childhood Cancer)のもと、本学会を機にアジア連携体制の強化を図り、アジア全体の小児がん治療成績の向上に資することを目標としています。小児がんにおける最新の知見に加えて、国際共同セッションや、アジア特有の課題を議論するセッション等を設けています。また、「病気ではなく、こどもを診る」という視点を意識して学会を構成しています。本学会への参加を通じて、世界のなかのアジア、アジアのなかの日本としての役割を考え、実践してゆくための良い機会になると思います。どうぞ奮ってご参加ください。

テーマ: You Raise it Up!

申込方法: 右記 HPから参加登録、演題登録をお願いします。http://siopasia2024.umin.jp/





せいいく あかちゃんの日&NICU同窓会開催

11月17日は世界早産児デーです。この日は、世界の早産における課題や負担に対する意識を高めるために、2008年にヨーロッパNICU家族会(EFCNI)および提携している家族会によって制定され、1年で最も重要な記念日の一つです。当院でも早産以外のお子さんも多く入院されており、「せいいく あかちゃんの日」としてすべてのお子さんを応援する日としており、病院1FにてNICU卒業生の写真展を開催しました。多くの方にNICUで頑張るお子さんとご家族を知っていただき、応援していただけますと幸いです。

11月18日には第2回NICU同窓会を病院講堂にて開催しました。30家族100人程の卒業生&ご家族が参加し、ミニコンサートやファシリテッドグのマスクんと交流を楽しみました。ご家族同士やスタッフ

とのおしゃべりタイムでは会話がはずみ時間が足りないくらいでした。ご参加いただいた皆さま、有難うございました。

また来年お会いしましょう！



おりがみツリー一点灯式開催

当センターの冬の風物詩となっているおりがみツリーは子どもが持つ力を社会にもっと知ってもらいたいという気持ちから2012年に始まった企画で、今回は4年ぶりの開催となりました。

約3ヶ月間の準備の過程では、院内外問わず、年齢や職種の壁を超えて、多くの方々にご協力いただきました。センター内からは約17,000点、地域からは、20以上の教育期間より約9,000点、合計26,000点以上の素敵なおりがみ作品が集まりました。

おりがみツリーに託す思いは、「大きなツリー楽しみだな」「病気と闘う子どもたちに元気を!」「みんなが笑顔で幸せに」と、様々。沢山の想いや祈りが詰まったおりがみツリーは12月初旬に完成し、12月14日には点灯式が開催されました。

五十嵐理事長の開会の挨拶のあとおりがみツリー

が点灯され、式にご参加いただいた多くのみな様より、歓喜の声が上がりました。集中治療科医師の壺井伯彦さん(ピアノ)、谷村 聡一郎さん(ヴァイオリン)、薬剤師の吉澤 なぎさん(ヴァイオリン)の3名による演奏があり、より華やかで素敵な式典になりました。その様子は、12月15日の日テレ「Oha! 4 NEWS LIVE」で放送され、より多くの方々に披露することが出来ました。ツリーは、2024年1月末まで飾られますので、ひと目でもご覧いただければ幸いです。



小児がん経験者のための長期フォローアップ体制構築に向けて
小児がんセンター小児がんデータ管理科 加藤 実穂、瀧本 哲也

日本では、年間約2,000~2,500例の小児がん患者が発症し、その長期生存率は欧米と同様80%を超えるようになりました。小児がん経験者の多くは、小児がんそのもの、あるいは小児がん治療に由来する「晩期合併症」と呼ばれる種々の健康障害を後に発症することが知られており、その個別化支援を行うための「長期フォローアップ(LTFU)」が予てより望まれてきました。これに取り組むために、令和2~4年度当センターの松本 公一 小児がんセンター長が代表を務める、厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)「小児がん拠点病院等及び成人診療科との連携による長期フォローアップ体制の構築のための研究」、通称「LTFU松本班」が、全国規模でLTFUに関するデータを収集・管理するための情報インフラを整備しました(図1)。

昨今、小児がん LTFUへの社会的関心が高まりつつあります。このようななか、2023年8月の厚生労働省健康局長通知にて、小児がん中央機関の業務として新たに「小児がん患者がその成長等に伴い全国どこに移住したとしても、切れ目ない長期フォローアップを受けることができる体制の整備を行うこと。」が加えられました。これは即ち、当センターの小児がんセ

ンター小児がんデータ管理科が小児がんLTFUに関する全国のデータの一元管理を行うべきことの裏付けとなりました。

LTFU松本班の枠組みにおいて我々が構築した電子的データ集積システム(EDC)は、小児がん医療現場を実際に知る医師が構築している点、既にLTFU研究の運用実績のある米国 St. Jude Children's Research Hospitalの LTFUチームと協働し、のちのエビデンス創出につながるようデザインしている点、また、リソースの少ない小児がん領域において持続性を重視した低コストのEDCを構築したという点が特徴的です。

小児がん医療の目指すところは、単に長期生存というだけでなく、「QOLの保たれた」長期生存です。これに必要なのは、医学的視点に加え、病気ではなく「子どもを診る」という視点であり、これは「成育医療」そのものと考えます。

LTFU を必要としているのは小児がん患者だけではなく、小児がん LTFU体制の運用実績を積んだうえで、ゆくゆくはこの体制を小児慢性疾患全域に適用し、小児全体に貢献したいと考えています。

小児がん経験者の長期フォローアップ体制構想

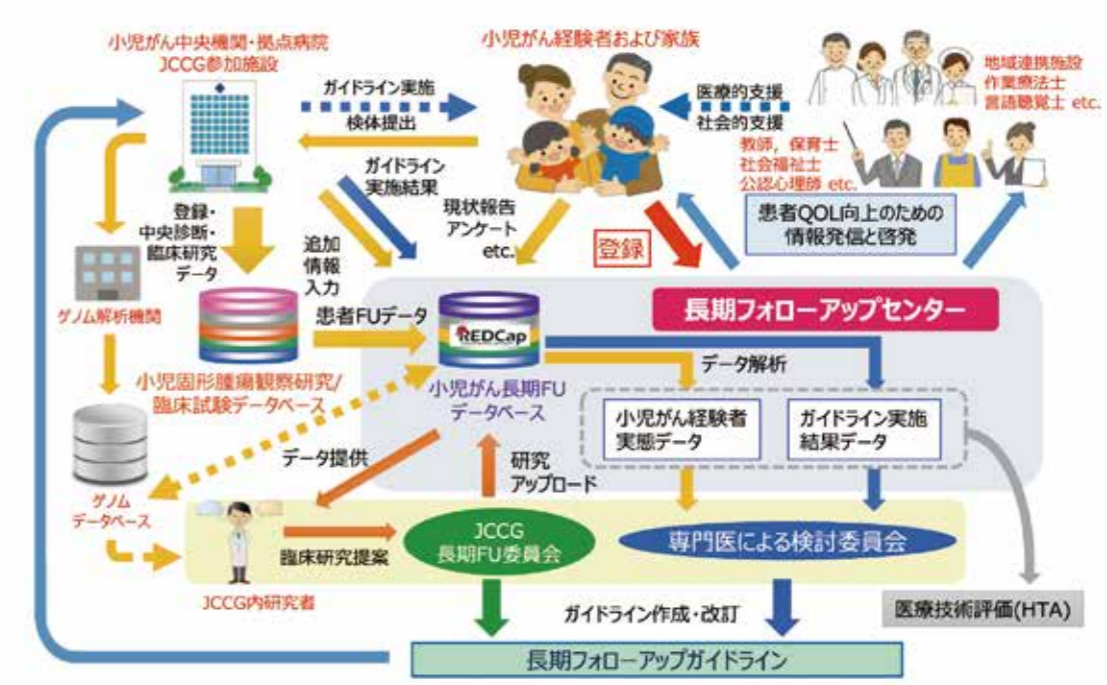


図1

診療科のご案内

母性内科

診療部長 山口 晃史/荒田 尚子/金子 佳代子

母性内科は、よりよい妊娠転帰と産後の長期的な母児の健康維持を目指すことを目的に、妊娠希望の女性、妊娠中の女性、産後の女性、子育て中の女性に内科医療を提供しています。妊娠前から妊娠期、産後に刻々と変化する生理や病態に関する深い理解と最新の知見をもとに、各診療科やセンター外の専門診療施設などと連携をとりながら総合的な診療を行っています。

妊娠前(プレコンセプションケア)：

妊娠を前提とした検診(プレコンセプション・チェックプラン)を行い、今後の妊娠・出産に影響する疾患のチェックとカウンセリングやサポートを行います。内科的疾患をお持ちの場合には、よりよい妊娠に向けた準備を包括的に他の専門家とともにサポートします。

妊娠中：

母体と胎児の両者の予後をよりよくするために、内科疾患をもたれた女性の妊娠(合併症妊娠)、妊娠中に併発した合併症(妊娠合併症：妊娠糖尿病や妊娠高血圧症候群、甲状腺機能異常、偶発疾患など)の治療と管理を行います。

産後：

内科的合併症や妊娠合併症の他、産後の体調不良、次の妊娠のためのヘルスケアなど長期的な健康を見据えた産後の管理を行います。

▶ 得意分野・対象疾患

内科疾患を合併した妊娠前から妊娠、産後の診療：

免疫の関与する不妊・不育症、膠原病(SLE、関節リウマチ)、抗リン脂質抗体症候群、糖尿病、バセドウ病、甲状腺機能低下症、高血圧症、慢性腎臓病(慢性腎炎、ネフローゼ症候群など)、呼吸器疾患(気管支喘息など)、感染症(肝炎など)

妊娠中にでてきた合併症の診療：

妊娠糖尿病、妊娠高血圧症候群、妊娠性一過性甲状腺機能亢進症など

産後の診療：

産後高血圧、産後甲状腺異常など産後指導として妊娠糖尿病や妊娠高血圧症候群に罹患された方の産後長期的な健康指導やワクチン接種などを行っています。

その他：

妊娠・授乳中に使用できる薬の指導、母体・胎児を守る予防接種に関するご相談もお受けしています。

▶ 特徴的な管理：

免疫グロブリン療法：

抗リン脂質抗体症候群や不育症に対する免疫グロブリン療法、Rh不適合妊娠などへの血漿交換療法、B型肝炎の母子感染予防、バセドウ病の管理と胎児甲状腺モニタリング(産科と共同)、抗SS-A抗体陽性妊娠に対する胎児心モニタリング(胎児診療科と共同)、妊娠糖尿病のリブレを使った管理、1型糖尿病のSAP療法(Sensor Augmented Pump療法：パーソナル持続血糖モニタリング機能を搭載したインスリンポンプ療法)、肥満女性の妊娠前プログラムなどを行っています。



後方左から 飯村 祐子、佐藤 志織、三戸 麻子、樋口 秋津、久野 道
前方左から 荒田 尚子、山口 晃史、金子 佳代子

薬剤部

部長 赤羽 三貴
副部長 岩橋 香奈・栗山 猛・稲吉 美由紀・栗原 陽介

私たち薬剤部は、最も効果的かつ安全な薬物療法の実施を目標に、チーム医療の一員として各種の診療支援・患者支援を行っています。また、日本における小児・周産期薬物療法適正化推進のための活動をしています。

安心・安全な薬物治療を提供しています。

1) 調剤業務、製剤業務

治療が困難な小児難病等の患者さんや緊急性が高く、高度な医療を要する患者さんに対応するため、小児・周産期を専門とする薬剤師が薬物療法に参画しています。調剤業務では処方された薬の投与量・投与方法や飲み合わせに問題がないか、服用できる剤形なのか、副作用が生じていないかを確認し、医師とともに有効で安全な薬物療法を提供しています。院外の保険薬局や患者さんからの問い合わせについては、医師と連携を図りながら、お答えしています。抗がん剤や高カロリー輸液(TPN)製剤は一人ひとりの患者さんにあわせた薬剤を無菌的に調製しています。また、小児薬物療法においては市販されている薬剤・剤形だけでは必要な治療が行えないことがあり、様々な院内製剤を調製しています。

2) 服薬指導(薬剤管理指導業務)、病棟薬剤業務、周術期薬剤管理業務

患者さんに安全で適切な薬物治療が行われるように、各入院病棟や入院サポート室に担当薬剤師を配置しています。手術を控えた患者さんには、外来で手術前に服用をやめなければいけない薬を飲んでいないか確認をしています。入院時には普段飲まれている薬やアレルギー・副作用歴などを確認し、入院後もスムーズに治療が開始できるよう支援しています。小児薬物療法においては患者本人の理解が服薬の継続のために特に大切であり、様々な工夫をして服薬指導を行っています。チーム医療を通して様々な診療支援を行い、医療の質の向上及び医療安全の確保に取り組んでいます。退院時はお薬手帳や文書により、かかりつけの薬局に入院中に変更のあった薬の情報を伝えるなど積極的に薬薬連携を図っています。

専門的な薬剤師教育を行っています。

薬剤師教育は当センター薬剤部の重要な使命の一つです。小児・周産期の薬物療法には専門的な情報・技術が必要であり、当薬剤部に所属する多くの薬剤師が各種専門・認定薬剤師を取得し、様々な領域で活躍しています。また、専門性の高い医薬品情報を全国に配信し、教育と研修の充実を通して人材育成を行っており、小児薬物療法認定薬剤師研修、妊婦・授乳婦専門薬剤師養成研修等の受入を担っています。

子ども達のための医薬品開発に協力しています。

成人用に比べて、小児用の薬は多くありません。また、小児にとって服用しやすい剤形も不足しています。そこで製薬企業や大学、研究機関に対して小児の医療ニーズに基づいた研究協力をしています。今までに小型錠剤、服用補助食品などの開発に携わっています。

Medical Frontier

薬剤部では医薬品の供給と調剤、薬学的患者ケアを実践するとともに、全ての患者さんに安全で適切な薬物治療が行われるように、質の高い薬物療法の提供を目指しています。



母児感染研究室

ウイルス感染細胞を使った先天性サイトメガロウイルス感染症の病態解析

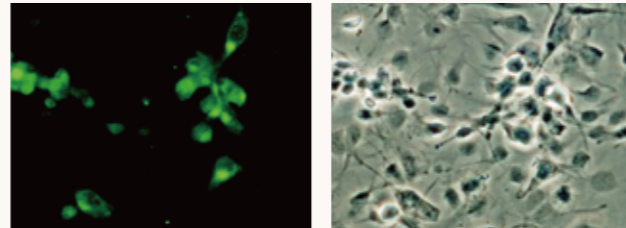
室長 中村 浩幸

病原体の中には妊娠中に母体から胎児へ感染し、感染児にさまざまな影響をおよぼすものがあります。当研究室では、サイトメガロウイルス(以下、CMV)が引き起こす先天性CMV感染症を主な研究対象とし、CMVによる病態形成やCMV増殖のしくみを明らかにすることで、新たなウイルス制御法につなげることを目指しています。

CMVにはさまざまなヒト細胞に感染し細胞機能を変化させるという特徴があります。先天性CMV感染症にみられる神経・感覚器障害など多様な合併症をCMVがどのように引き起こすのか明らかにするために、神経系細胞など種々の培養細胞を用いてCMV感染系を作り、CMV感染が細胞機能におよぼす影響を調べています。また、ウイルスには細胞機能に依存して増殖するという特徴もあります。そこでCMV増殖を抑えるための新たな手掛かりを得るために、どのような細胞機能に依存してCMVが増殖するのか上記CMV感染系を用いて調べています。

先天性CMV感染症の合併症の一つは難聴です。出生時には無症状であっても、生後しばらくして難聴を発症する場合があります。当センター耳鼻咽喉科と連携し、原因不明の難聴のお子さんの保存臍帯を用いてCMV感染の有無を調べています。これにより、先天性CMV感染をともなった難聴症例を同定し、その臨床的特徴に基づく適切な医療介入法などを検討することにつながっています。

ヒト神経系培養細胞を用いたCMV感染系



CMV感染細胞はウイルス抗原(緑色)を発現し、形態変化を示す

臨床研究センター 臨床研究コーディネートユニット

当センターで、現在募集中の治験をご紹介させていただきます。候補患者がいらっしゃいましたら、お問い合わせいただけますと幸いです。

<お問い合わせ先>臨床研究コーディネートユニット 電話:03-5494-7120(内線5371) 時間:9:00-17:00(平日のみ)

現在募集中の治験

対象疾患	対象年齢	薬の形
新生児ヘモクロマトーシスと診断された児を分娩したことのある妊婦	16歳以上45歳未満	注射剤
便秘症	1歳	経口剤
中等症~重症の活動性潰瘍性大腸炎	2歳以上18歳未満	注射剤
中等症~重症の活動性クローン病	2歳以上18歳未満	注射剤

注1) 募集人数に達した場合や担当医師の診察によって参加基準に当てはまらなかった場合は、治験に参加できないこともあります。

注2) 治験への参加を希望される方は当センターを受診し、参加基準に該当するか、担当医師が診察・検査を行います。その際の実験料や検査料は、治験に参加するかにかかわらず、通常の保険診療と同様に患者の方の負担になります。

当センターで、治験を実施した薬剤が承認されたため、ご紹介させていただきます。今後も1日でも早く新しいお薬を皆さんに届けられるよう治験を進めてまいります。

承認された治験薬

対象疾患	商品名	承認日
高尿酸血症	フェブリク錠	2023年6月(小児用量追加)
成長ホルモン分泌不全性低身長症	ソグルーヤ皮下注	2023年6月(効能追加)
SHOX異常症	グロウジェクト皮下注	2023年6月(効能追加)
Fontan手術施行後における血栓・塞栓形成の抑制	イグザレルト	2023年11月(効能追加)

紺綬褒章授与おめでとうございます！

当センターへのご寄付いただいた皆さまに感謝申し上げます。寄付金はファシリテッドッグの運営費、医療従事者のスキルアップのための教育費、子ども達の環境整備の充実などに使用させていただきます。

この度、小児医療のさらなる発展と研究の推進のため当センターに多額のご寄付をされたことに対し、日本国より紺綬褒章が2団体と1個人に授与されましたので、ご報告申し上げます。JCRファーマ株式会社さま

(写真1)には毎年もみじの家をご支援いただいております。株式会社パン・パシフィック・インターナショナルホールディングスさま(写真2)は、社員のお子さんが当センターに通っていたご縁よりご支援をいただきました。刀襦さま(メンタルヘルステクノロジーズ代表取締役社長)(写真3)は、次世代を担う子どものためにという思いからご寄付いただきました。

みなさまのご厚意に深く感謝申し上げます。



(写真1) 右)代表取締役会長兼社長 芦田 信さま 左)理事長 五十嵐 隆



(写真2) 右)代表取締役社長 CEO 吉田 直樹さま 左)病院長 笠原 群生



(写真3) 左)刀襦 真之介さま

温かいご支援有難うございました！

寄付者ご芳名

2023年4月1日~2023年9月30日(敬称略)

●法人の皆さま

Ensemble espoir
一般社団法人Empower Children
ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社
株式会社Cland
株式会社大和ネクスト銀行
株式会社忠勇東京
株式会社メディカルレビュー社

関西学院千里国際中等部・高等部 料理部
合同会社StartPort
資生堂ジャパン株式会社
日産自動車株式会社

●個人の皆さま

赤崎 洋子 菱田 麻美
明石 慶子 福田 智子
浦濱 杏 増野 恵
韓 宇炫 安田 功夫
坂中 美千代 山崎 篤史
藤堂 実香 山崎 佳衣の母
ナガモト 山本 理史



子どもたちの命を守るための医療機器の整備や、療育環境の改善のためにご寄付をいただくとありがたく存じます。当センターへの寄付は税制上の優遇措置(寄付金控除)を受けることができます。詳細はHPをご覧ください。

<https://www.ncchd.go.jp/donation/application.html>

